

弥生土器に描かれた銅鐸文様

玉津田中遺跡(神戸市西区)

銅鐸は鑄型に青銅を流し込んで作られています。銅鐸を飾る文様には、鋸齒文、綾杉文、斜格子文、連続渦文、流水文などがあり、銅鐸の部位ごとに文様は決められています。鋸齒文は鰭や鈕に内向きに描かれており、綾杉文は鈕の菱環に描かれ、斜格子文は袈裟襷文の帯の中を充填しています。

姫路市の今宿丁田遺跡や名古山遺跡などの弥生時代中期の遺跡から石製の銅鐸鑄型が出土しており、播磨地域でも銅鐸が作られていたことがわかります。

弥生土器の高坏や脚台付無頸壺にも鋸齒文や綾杉文、斜格子文など、銅鐸と同じ文様が描かれています。鋸齒文は高坏や無頸壺の脚裾部に上向きに、尖った工具で緻密に描かれており、銅鐸との共通性が見うけられます。鋸齒文や綾杉文などの銅鐸文様と共通する土器は銅鐸鑄型が出土している西播磨地域を中心に分布することから、これらの土器を作った人は西播磨地域の銅鐸をよく知る人との関係がありそうです。

弥生土器の文様と特別展「弥生の至宝 銅鐸」で展示されている銅鐸文様と見比べてみてください。(学芸課 篠宮 正)



玉津田中遺跡(神戸市西区)